

令和 7 年度 第2回遊佐町振興審議会会議録

・開催日時 令和 7 年 8 月 28 日(木) 午前 9 時～10 時 48 分

・場所 遊佐町役場 議場

■出席委員

石川茂穂、阿部智井、松宮竜也、本間優子、佐藤仁、池田信幸、東海林和夫、筒井義昭、菅原覚、小野寺ゆり、榎本真一、森元拓、渡邊宗谷、後藤淳子、白旗康子

■欠席委員

斎藤勝広、真嶋慎一、渡会健、大場清悦、伊原光臣

■町出席者

副町長、教育長、総務課長、産業課長、地域生活課長、健康福祉課三浦課長補佐、町民課長、教育課長、議会事務局長

■事務局

渡会和裕、佐藤裕也、遠田久幸、瀧口めぐみ

次第

1 開会

2 会長あいさつ

3 会議録署名委員の指名 阿部智井委員、松宮竜也委員

4 協議

5 その他

6 閉会

協議の質疑応答等

(1)総合発展計画骨子案について

質疑なし

(2)現計画の検証結果について

(委員)

第 8 次振興計画における施策成果指標・実績一覧の介護予防者支援者数について、令和 6 年度の確定値が最終目標値を大幅に超えているがその要因は。またボランティア連絡協議会でのボランティア登録者数について、確定値が目標値に比べ極端に少ないが要因は。

(事務局)

1 点目の数値については当初計画策定時の設定根拠が引き継がれていない状況であったため、要因が不明である。2 点目の数値についてはボランティア登録者数の大半を婦人会が占めていたが、婦人会が解散したことにより確定値が大幅に少ない数値となっている。

(委員)

今後は数値の設定根拠をしっかりと把握してほしい。

(3)基本構想案について

(委員)

市町村民所得について遊佐町は県平均や近隣市町を下回っているが、要因の分析は行っているか。分析により具体的な施策を考えるうえで、重点化していくポイントが見えてくると思う。

(事務局)

分析はできていない状況。資料は持ち合わせていないが、第1次産業・第2次産業の割合が他市町に比べ高いことが要因の1つではないかと推測している。

(委員)

この数値だけに限ったことではなく、その他の統計数値、現計画の実績数値についても課題が隠れていると思うので分析の視点が必要と感じる。

(会長)

各種統計の結果はでているが、なぜそのような結果になったのかがわかりにくいと感じた。分析結果を示してもらえると、その分析を踏まえてどうすべきかを基本構想に示せるのではないか。分析はできている状況か。

(事務局)

統計の結果を把握しているという状況にとどまっており、要因の分析には至っていないため、課題として受け止めたい。

(委員)

基本理念について、これまでの「オール遊佐の英知を結集」から「チーム遊佐でしあわせあふれるまちを創る」がとてもいいと感じた。これまでの「考えるまち」から「行動するまち」になる印象を受けた。町民一人一人が当事者となって、自分の町を自分たちで作るという方向性が伝わってくる。また、「しあわせあふれる」という言葉は国としてもウェルビーイングを進めている。しあわせとは人ととのコミュニケーションではないか。例えば子どもが減って集落でラジオ体操が出来なくなっている状況で、そこで終わってはいけないと思う。例えば年配の方も参加し三世代で行うという発想になれば、そこにコミュニケーションが生まれ、しあわせが生まれる気がする。そこをコーディネートするような人が必要であり、社会教育力を付けていくことが大事であると思う。これまでもいい取り組みをしているので、そこを支援いろいろな人が関わり、行動を起こし「チーム遊佐」で向かっていくということが見える基本理念でありうれしく感じた。

「ふるさと愛」という言葉があるが、遊佐町だけを愛することではなく、山形県、日本も含め愛することで遊佐町から発信していくと考えているがその認識でよいか。

(会長)

ウェルビーイングには経済的な豊かさだけを求めるという生き方は方向転換すべき時に来てい

るという意味が含まれていると思う。KPI で動く行政としては目に見えない部分であり難しい部分ではあるが、基本理念に想いが込められていると感じた。

(事務局)

「チーム遊佐」には町民だけでなく町外の交流人口・関係人口も含め一員となり、持続可能な町をめざしていくとの想いを込めていた。「しあわせ」については、現在人口減少社会にあり、悲観的な見解も多い。町としても人口減少のスピードを少しでも止めるために力を入れていくが、全面的に止めることは難しい状況。人口減少を抑制する対策が必要だが、人口減少に対応する取組みも必要であることから、しあわせを感じられるまちを目指していきたいと思いこの基本理念とした。「ふるさと愛」については委員と同じ考え方である。

(委員)

基本理念の説明にある「しあわせを感じられる」という部分について、国別の幸福度ランキングの高い国の特徴として、家族や地域との絆が強い、豊かな自然環境との共生などがある。自分自身は町に住んでいてすごく幸せを感じている。町民所得が低いとのデータが載っていたが、町の幸福度が高いことが伝われば、町で暮らしたい方が増えることに繋がるのでは。数値としての町の幸福度は調査しているか。

(事務局)

前回会議資料として町民アンケート調査報告書を配布したが、現在の幸福度を聞く項目があった。この結果が他と比較し高いか低いかの分析はしていないが、現状の数値としては把握している。加えて、町内での暮らしの満足度や 5 年後の幸福度も聞いており、国で示す幸福度調査の設問を参考に調査した。

(会長)

基本構想を考えるにあたり、幸福度を上げる施策を推進することが、究極的な目的となるのではないか。幸福度を把握する調査を定期的に行い、時系列での分析が必要だと思う。幸福度が重要との意識で町の施策を進め、そこに町民も関わっていくことになれば、幸福度を上げていく施策が重要視されていくのではないか。

(委員)

遊佐町の基幹産業は農業であるべき。食の安全性が問われる中で、遊佐町が今後生きていくために農業は重要である。先週米の概算金が出され、昨年より11,500 円増であり、ここ 10 数年なかったこと。米価の高止まりは悪い意味でとられることもあるが、農家の収入が確保され遊佐町の農業が復興するターニングポイントと捉えることもできる。それを支援するための施策を展開することが重要。先日産業課長から町独自の親元就農者に対する支援の話があったが、そのような施策が今後の遊佐町にとって重要であると思う。

(産業課長)

農業だけではなく商工業でも担い手不足をどうしていくかを最重要課題として考えている。話に

あつた町独自の親元就農支援事業を新規で作ったが、それだけで解決するものではない。これから財政状況も踏まえたうえで新たな施策も検討していきたい。

(委員)

現行計画にはない計画の進捗管理について記載があり、毎年評価検証し見直すことは大切なことでぜひ進めてもらいたい。まちづくりの評価に見る課題感がデータとして出てきている。原因を分析し、どうしたら満足度を向上させられるかを考え具体的な施策に盛り込んでももらいたい。幸福度に関して、都会と比べ収入面では劣るが、同レベルの生活水準を維持するために必要な経費は低いので、収入が低くても同じような満足度を得られるとも言われている。そこを分析して、移住定住に繋がるよう考えていくといつてほしい。町の魅力は収入では計れないと思うので、魅力を発信し、今以上に移住定住者の増、流出者を減らす取組みが必要になると思う。

(会長)

満足度が低く重要度が高い施策は特に対応すべき項目。重要度が高い項目にできるだけフォーカスして満足度・効果を高める施策が必要となるが、それが出来ていない状況。今後次期計画ではここに力を入れていくことになる。

幸福度について、なぜ幸福と感じるのか、自然なのか人の温かさなのか、その先の分析も今後必要となるのではないか。

(委員)

町民ニーズの状況に 6 割が町に居住することに対し比較的肯定的な意向とありうれしく思うが、そう思っていても現実として町に残れない状況もあるのではないか。農業に限らず様々なところで後継者がいないという声を聞く。働く条件などの改善も必要だと思うが、うまくマッチングして町への居住を希望する子どもたちが町に残れるようになっていけばいいのではないか。中高生の職業体験を行っているが、どの程度地元定着に結びついているかがポイント。

遊佐町には子育てしやすい町ということで若い人たちが移住定住しているが、子どもが高校を卒業すると出て行ってしまうのではもったいない。そこを引き留める施策を進めてもらいたい。

(会長)

社会流出人口を減らすという意味でも、できるだけ現在の中高生に地元にとどまってほしいという取組みが必要だが、基本構想案に表れている部分はあるか。

(事務局)

基本構想案ではまちづくりの主な課題の「人口減少」で若者の町外流出に触れたうえで、基本目標の「若者が住み続けたいまちづくり」に若者が回帰するための取組みを進める、町民が住み続けられる定住施策を充実させることを掲げている。

(会長)

基本目標の「若者が住み続けたいまちづくり」に交流人口、関係人口を増やすための取組みを進めるとあるが、現時点での具体的な施策の見込みはあるのか。

(事務局)

ふるさと納税の寄付者にPRすることや町と交流のある東京都豊島区や宮城県大崎市、ハンガリー・ソルノク市との交流を深めること、また、国の地方創生の施策で住所地以外の地域に継続的に関わる方々を登録できる「ふるさと住民登録制度」の創設が予定されているので、活用していきたいと考えている。

(会長)

基幹産業である農業だけでなく、企業誘致などを含め様々な産業を作っていく必要があると思うが、現時点での見解があればお願ひしたい。

(産業課長)

酒田・遊佐管内の高校生の約7割程度が進学し、地域から出ている。残りの約3割が就職であるが、地元就職が非常に少なく、管内の事業所で苦労している。町だけでは解決できない状況のため、関係機関と連携し地元定着のための取組みを続けているが、これというものが見つからない状況。引き続き検討していきたい。

(委員)

基本目標の「鳥海山の恵みを活かし、産業が成長するまちづくり」について、町で新たに作ったペットボトルの水のデザインが目立っていなかったので、鳥海山のおいしい水がわかるデザインであれば良かったと感じた。「ふるさとを愛し、いのち輝く人を育むまちづくり」に関し、子どもたちがいっぱいいた頃は町中でも子どもたちから声かけがあった。今は子どもたちが少なくなり、大人どうしが行きかってもあいさつ、声掛けが無いように感じる。声掛け、あいさつを施策に入れて、明るい町になってほしい。

(会長)

商品に「遊佐」という名前が付くことが、対外的なPRになり、かつ町民の誇り、意識の問題が重要な問題になる。あいさつについても、同じ地域で暮らしているなかで、一緒にまちを作っているという意識の表れではないか。

(産業課長)

2年程前に事業に着手し、町と第三セクターでペットボトルの水を作った。10月にプレスリリースする予定。利益目的ではなく湧水の町をPRするツールとして考えている。これまで民間事業者が販売してきた鳥海山の水のラベルとの差別化を図るために、このようなデザインとなっている。

(4)今後の予定について

(質疑なし)